科目名			担当教員	
心理学研究法B			吉田　綾乃	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FB4539	2	1	SR（講義）	3年以上
履修登録条件		受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。		
生成AI利用レベル		レポート　：　B	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2017年度以前・2018年度以降に入学した方どちらも履修登録できます。
※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。
※この科目は、専門性の高い科目のため福祉心理学科の方のみ履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

私たちは、普段の会話において「あの人は社交的だ」、「自尊心が低い」などの表現を用いることがあります。“社交的”や“自尊心”は、それ自体は見ることも触ることもできない抽象的な観念、すなわち心理学的構成概念です。これまでに、心理学的構成概念を測定する心理尺度が数多く開発されてきました。心理尺度を開発するときには、測定したい心理現象を理論的構成概念として明確に定義し、それを反映する質問項目を設定するための一定の手続きが必要になります。そして、心理尺度の精度や適切性の指標となるのが「妥当性」と「信頼性」です。

この講義では、統計ソフトを用いてデータ処理や解析を行いながら、心理学的構成概念がどのように質問紙法によって実現されるかを体験します。また、心理尺度の構成概念妥当性と信頼性について統計的な検証を行います。これらを通して、心理学的研究方法のひとつである質問紙法に関する基礎的知識を習得し、質問紙法を用いた学術論文が読めるようになること、また、質問紙法による研究を実施できるようになることを目指します。

【スクーリングで学ぶ内容】

質問紙の作成から、実施、データ入力、データ処理、統計的なデータ解析までの一連の過程を学び、卒業研究等で心理尺度を用いた質問紙調査を行う場合の基礎的知識を習得します。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】

質問紙法を用いた論文を講読する際、研究者がどのような意図で文章を書いているか、統計を用いているかを読み取るために必要な基礎的用語や知識について学習します。

■到達目標

１）心理学的構成概念について説明できる。
２）質問紙法を用いた学術論文を読むための基本的用語について説明できる。
３）質問紙法を用いた学術論文で用いられることが多い統計的手法についてある程度説明できる。
４）仮説に基づいて質問項目を準備し、適切な方法で調査を行うことができる。
５）質問紙調査によって得られたデータを仮説に基づいて分析し、結果を報告することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「実証的分析力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 50%＋スクーリング評価 50%

■教科書・参考図書

【教科書】

浦上昌則・脇田貴文著『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方　改訂版』東京図書、2020 年

（最近の教科書変更時期）2021 年 4 月

（スクーリング時の教科書）スクーリングにあたって、上記教科書は参考程度に使用します。スクーリング用の資料を配付します。

【参考図書】

スクーリングの時に配布する資料は、以下の 2 冊を主に参考にしています。

村田光二・山田一成編『シリーズ・心理学の技法　社会心理学研究の技法』福村出版、2000 年

清水裕士・荘島宏二郎編『心理学のための統計学 3　社会心理学のための統計学　心理尺度の構成と分析』誠信書房、2017 年

方法論をより深く理解したい方へお勧め：

高野陽太郎・岡隆編『心理学研究法　心を見つめる科学のまなざし』有斐閣アルマ、2015 年

安藤清志・村田光二・沼崎誠編『補訂新版　社会心理学研究入門』東京大学出版会、2017 年

村上宣寛著『心理尺度のつくり方』北大路書房、2006 年

統計の入門書としてお勧め：

岩淵千明編『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版、1997 年

川端一光・荘島宏二郎編『心理学のための統計学 1　心理学のための統計学入門　ココロのデータ分析』誠信書房、2014 年

スクーリング

■スクーリング受講条件

1 ）スクーリング申込締切日までに「心理学概論 A」「心理学概論 B」「福祉心理学」「社会・集団・家族心理学 A（社会・集団心理学）」「心理学実験ⅠA」「心理学研究法 A」「心理学統計法」7 科目の単位修得。

2 ）「心理学実験ⅠB・ⅡA・ⅡB」のスクーリング受講済。

3 ）上記を除く福祉心理学科　専門必修科目、選択必修科目、専門選択科目 A 群から 3 科目分すべてのレポート提出。

※2017 年度以前入学者は 1）「心理学概論」「福祉心理学」「社会心理学」「心理学実験Ⅰ」「心理学研究法Ⅰ」「心理学統計法」6 科目の単位修得済、2）「心理学実験Ⅱ」のスクーリング受講済、3）の条件は上記と同じとなります。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	質問紙調査法の概要の説明	心理学的構成概念の測定について学ぶ
2	質問紙の作成	研究仮説に基づいた調査項目の作成について学ぶ
3	質問紙の実施	質問紙調査の実施について学ぶ

4	データ入力・整理	データ入力と整理について学ぶ
5	データ処理・解析①	因子分析、信頼性分析などについて学ぶ
6	データ処理・解析②	相関分析などについて学ぶ
7	データ処理・解析③	回帰分析などについて学ぶ
8	統計的結果の解釈、まとめ	統計的結果の解釈について学ぶ
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配布資料をもとに進めます。グループワークを行います。仮説に基づく質問項目の作成、実施、データ入力、データ処理、データ解析と解釈までの一連の過程を実践的に学びます。パソコン（Word、Excel、SPSS など）を使用するため、USB（Gmail 利用可能な方は不要）を持参してください。事前に質問紙法を用いた研究論文を講読することを求めます。

Google Forms を利用した調査票を作成する場合があります。Gmail が利用可能であることを必ず事前に確認の上、参加してください。

■スクーリング　評価基準

スクーリングへの参加状況に加えて、スクーリング中に取り組んだ研究についてまとめたレポート（2 単位めレポート）の評価を加味して、総合的に評価します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書ｐ.89 以降に掲載されているサンプル論文のいずれかを必ず読んでください。その後、第 1 章～第 8 章を読んでおくこと。（学習時間の目安 10 時間程度）

事前に、教科書に掲載されている論文以外の質問紙調査を用いた研究論文を読んでおくとスクーリングの理解が深まります。（学習時間の目安 3～5 時間程度）

論文検索サイト：GoogleScholar https://scholar.google.co.jp/

J-STAGE https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

教科書の第 4～第 8 章までを復習してください。

期日（スクーリング時に案内）に間に合うように 2 単位めのレポート課題に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	論文を読む （0 章、ほか）	数値データをあつかった研究論文を読む。	第 0 章を読んだ後、ｐ.89 以降に掲載されているサンプル論文を読み、論文がどのような構成で書かれているのか確認してください。知らない言葉にマーカーを入れて読むと良いでしょう。

2	論文とは何か① （1 章 1、2）	研究と論文の関係と論文の構成を理解する。	研究には仮説生成型の研究と仮説検証型の 2 つの形式があることを理解しましょう。1 回目に講読した論文の構成を確認してください。
3	論文とは何か② （1 章 3、4）	論文の表現や読み方について学ぶ。	論文ならではの表現を自身でも書くことができるようにしましょう。客観的かつ正確な表現の重要性を理解しましょう。また、将来、論文を批判的に読むことが出来るように、心理学や関連分野の知識も同時に深めるようにしてください。
4	研究における測定① （2 章 1）	研究における測定の役割を理解する。	観測変数と潜在変数の違いを理解しましょう。また、心理学では構成概念を扱っていること、それゆえに定義が重要であることを再確認してください。
5	研究における測定② （2 章 2）	心理測定とその方法を学ぶ。	質問紙で用いられる代表的な回答方法を学びましょう。質問紙法の主要なメリットとデメリットを理解しましょう。面接法や観察法の特徴と比較しながら確認すると、理解が深まります。
6	研究における測定③ （2 章 3、4）	心理測定で得られる数値データの種類を学ぶ。	4 つの尺度水準それぞれの特徴を理解しましょう。また、得られたデータに対して、信頼性と妥当性を検証することの重要性を再確認してください。信頼性と妥当性の関連性についても説明できるようにしましょう。
7	測定から統計へ① （3 章 1、2、3）	記述統計量について理解する。	論文には必ず記述統計量が記載されています。各数値の意味を再確認してください。特に、標準偏差と分散はしっかり復習してください。
8	測定から統計へ② （3 章 4）	統計的推測について理解する。	なぜ統計的推測や検定を行うのかを理解しましょう。また、統計的検定の流れを確認するとともに、帰無仮説、対立仮説、有意確率、有意水準などの基本的用語の意味を理解してください。
9	因子分析① （4 章 1.2.3 6 章 2.3）	サンプル論文 1 を読み、探索的因子分析について理解する。	心理尺度を用いた論文では、因子分析が頻繁に用いられています。因子分析の基本的な考え方についてしっかり理解するようにしましょう。
10	因子分析②、t 検定 （5 章 1.2.3）	サンプル論文 2 を読み、確認的因子分析と、t 検定について理解する。	サンプル論文 2 の t 検定の結果の書き方を確認し、説明を読むと良いでしょう。探索的因子分析と、研究的因子分析の違いを理解することがポイントです。
11	1 要因分散分析 （6 章 1.2.3）	サンプル論文 3 を読み、1 要因分散分析について理解する。	サンプル論文 3 をしっかり読んでください。1 要因分散分析は、t 検定と同様に母集団における平均値の差を検討する方法ですが、同時に比較できる群の数が違います。それぞれの分析の相違点についてしっかり説明できるようにしましょう。
12	相関 （6 章 1.2.3）	サンプル論文 3 を読み、相関係数と偏相関係数について理解する。	相関は 2 つの変数間の関係を表現する言葉のひとつですが、“相関”という言葉にはさまざまな関係が含まれていることを理解してください。相関関係と偏相関関係の異同の理解も大切です。2 変数間の関連の強さを視覚的にイメージできるようになると良いでしょう。
13	2 要因分散分析 （7 章 1.2.3）	サンプル論文 4 を読み、2 要因分散分析と $\chi 2$ 検定について理解する。	サンプル論文 4 で用いられている 2 要因分散分析も頻繁に用いられる分析のひとつです。ポイントは主効果と交互作用を理解することです。交互作用には様々なパターンがあることを理解しましょう。

14	重回帰分析 （8 章 1.2.3）	サンプル論文 5 を読み、重回帰分析について学ぶ。	サンプル論文 5 では、相関分析の後に重回帰分析が行われています。なぜ「相関分析→重回帰分析」の順番で掲載されているのか、それぞれの分析の特徴を踏まえて理解してください。重回帰分析も調査系論文で非常に使用頻度が高い分析ですが、実施における留意点を理解する必要があります。留意点をよく読み、論文を批判的に読む際に役立てましょう。
15	まとめ	研究論文を再読し、復習を行う。	再度サンプル論文を読んでください。1 目にマーカーを付けた箇所を理解できているかどうか確認してください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	スクーリング時のデータ分析結果について報告書を作成してください。報告書の構成は、問題、方法、結果、考察、引用文献です。スクーリング時に配付した関連論文を読み、報告書に内容を反映させることが求められます。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位めの課題は教科書の範囲内の学習で対応できるものになっています。教科書をよく読み、取り組んでください。2 単位めの課題は、スクーリングにおけるデータ分析結果について、研究論文のレベルを目指した報告書を作成することを求めます。スクーリング時に 2 単位めの報告書作成のための関連資料を配付します。

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

スクーリング時に行ったデータ分析の結果について報告書を作成し、期日（スクーリング時に案内）までに提出することを課題とします。詳細はスクーリング時に指示しますが、以下の点について気を付けながら報告書を執筆してください。

表紙に、テーマ（A が B に及ぼす影響、など）、グループ名、学籍番号、氏名を書いてください。報告書は【問題】、【方法】、【結果】、【考察】、【引用文献】の構成でまとめてください。

1 段落 1 メッセージの基本を守り、段落構成を工夫してください。箇条書きは使用しないでください。

【問題】では、実施した質問紙調査の具体的目的を、スクーリング時に配布した先行研究の内容をレビューしながら論じてください。各自で調べた内容について加筆していただいてもかまいません。測定する心理学的構成概念の定義を、必ず出典とともに明記してください。仮説は問題の最後に記してください。

【方法】は過去形で論じてください。調査時期、調査対象者、測定項目、手続きについて明瞭に文章で示してください。調査対象者は男女の各人数、平均年齢、標準偏差を示してください。測定項目は、使用した既存尺度の出典を明記し、何件法かを示します。「全く当てはまらない⑴」など選択肢も具体的に記してください。測定尺度の具体例も示しましょう。

【結果】も過去形で論じてください。因子分析、信頼性分析、相関分析、回帰分析（あるいは重回帰分析）の結果を正確に記してください。統計的分析によって得られた事実のみを示し、解釈は結果では示さないようにしましょう。図表を作成するように指示があった場合には、図表作成ルールに則り、記載してください。

【考察】では、まず始めに、研究目的を踏まえて仮説が支持、不支持であったのかを明記してください。

その上で、なぜそのような結果が得られたのか客観的な考察を行ってください。自身の考察を裏付ける第三者の主張（論拠）が出典とともに示されていることが望ましいです。また、研究結果の一般化可能性、実施した研究の限界について多角的に論じてください。

【引用文献】は、文中に引用した文献について心理学分野の引用ルールに則り、正確に記してください。

科目修了試験

■評価基準

2 単位めレポート課題の詳細な評価基準は、スクーリング時に配付します。